

小学校の川や防災に関する学習を支援します

松本砂防工事事務所

沢に流木止めの人工岩が

奈川村の栃洞沢床固め



女工哀史で有名な野麦峠に近い野麦峠流路工は、同地域周辺を文化や歴史を生かした「ヒストリーゾーン」とする構想を進める村の計画に合わせ、整備が行われています。災害を防ぐ役割とともに、文化や自然との共生、そして人々が楽しめる環境作りが行われています。

近くの栃洞沢には、流木止めがあります。上流から流れてきた大木が、途中で自然の流れをせき止め、土石流を発生させることがないようにする施設です。珍しいのはその形。コンクリートで作られていますが、形は岩に似せて作られています。写真のようなものが沢の流れの中から飛び出しています。付近の護岸には自然の石が使われていて、景観にも配慮した作りになっています。

溪谷に巨大な岩と岩壁

ヒスイ峡と小滝学習護岸



ヒスイの産地として有名なヒスイ峡。糸魚川市ではこの周辺を「ヒスイ峡岩石庭園」として整備しています。ヒスイの原石を見学できたり、地形や地質、岩石について学んだりできる「学習護岸」とする計画です。

新潟県が地すべり対策工、松本砂防工事事務所が川沿いの護岸工を施工、協力して護岸の整備を行っています。

ヒスイ峡の学習護岸は自然の石が使われていて、川に親しむスペースとしても適しています。目の前に巨大な岩がごろごろとあって、その大きさに驚かされます。川から見上げると、これも巨大な岩壁が空に向かってそびえています。自然の大きさを実感し、砂防の学習ができる場所です。

子供たちが将来、「大野はいいな」と言えるように

新潟県糸魚川市 大野地区区長
渡邊定雄さん



「学校・地域・保護者が一体となって子どもたちの教育を行い、大野の良さを子どもたちに伝えて、子どもたちが将来、『やっぱり大野はいいな』と思えるようになってくれば」。

渡邊定雄さんは、子ども時代から大野に住み、現在は同地区長。学校教育にも関心を寄せ、現在は学校の評議員を務めるほか、学校サポーターとしても積極的に活動されています。その渡邊さんが学校支援として今年力を入れているのが「防災」の学習。自然に恵まれた地域だからこそ、災害も身近で、だから自らの身を守ることを学ぶことが大切。ちょうど大野地区では今年、総合防災訓練があり、地域ぐるみで防災について理解を深める絶好の機会になっています。

大野小学校では、姫川の自然や人との関わりについて学習、その中で災害について学んでいます。その時、大

野をよく知り、大野が大好きな渡邊さんだから教えられることも多いのです。

「子どもたちには、川での遊びや過去の水害のことなど私の知っていることを話してきました」という。学校の先生でも知らない、姫川の秘密や川との付き合い方をよく知る、頼れるサポーターなのです。

地域の人たちは先ごろ、子どもたちといっしょに姫川上流の自然や災害の爪あとを訪ねる「見学会」にも参加しました。その推進役になったのも渡邊さん。「地域の人たちも、子どもたちといっしょに学習して防災への認識が深まったと思います」。「私の話がどう伝わったのか、子どもたちの発表が今から楽しみです」という「地域の先生」渡邊さん。発表会でも活躍の様子が見られそうです。

発行

国土交通省
松本砂防工事事務所

〒390-0803 長野県松本市元町 1-8-28
TEL. 0263-33-1115 FAX. 0263-33-6086
メールアドレス matumoto@hrr.mlit.go.jp

お問い合わせは
FAXかE-mailで
お願いします。